

楽しみ膨らむ山梨YMCAクリスマスツリー点灯式

インマヌエル甲府キリスト教会 牧師 岡 信男



♪ O Christmas tree, Your
gay green dress delights
us〜（「もみの木」）、

12月5日(金)夕暮れ時、
キッズパラダイスの歌声
と共に、山梨YMCAクリ
スマスツリー点灯式は本
館前駐車場で始まりまし
た。ツリーを皆で囲み、
「3、2、1、ゼロ！」の掛
け声に合わせて、鮮やか
に点灯させました。「あ
なたがたのために救い主
がお生まれになった（ル
カ 2章11節）」との聖書
の御言葉から私がお話さ
せていただき、「きよし
この夜」を歌って、式は
締めくくられました。

元来、もみの木にロウ
ソクを灯していたツリー

ですが、今では、LEDライトの光が主流となりました。それでも、「世の光」「闇を照らす命の光」であるイエス・キリストの降誕を、光で祝う伝統に変わりはありません。

絵本『ちいさなもみのき』（マーガレット・ワイズ・ブラウン作）は、もみの木と男の子が、クリスマスを毎年祝いながら共に成長していく、美しい物語です。もみの木に、モールや鈴、玉や星が飾りつけられ、特別なツリーに変わった時、語り手は言います。「ああ、なんとふしぎな輝きでしょう、あの小さなもみの木は…クリスマスツリーになりました。」YMCAに関わる全員が、とりわけ子どもたち、ユースたちが、出会いや学び、体験を通して成長し、個性輝く特別な一人一人となり、世界を明るく照らす存在となることを願います。

▶クリスマスのお話を
子どもたちにしてくださった岡牧師



■年間聖句

愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。（コリントの信徒への手紙Ⅰ 13章4節）

■山梨YMCAの使命

- 自己の価値を見出し、共に生きる社会を創り出すために、青少年から高齢者までの、生涯にわたる学びのプログラムを展開します。
- 創られた全てのものを大切にし、自然と人間が共存してゆくための働きをすすめます。
- 全世界の人々と連帯し平和を表現してゆくために、特にアジア地域における日本の歴史的な責任を自覚し、近隣諸国とのよりよい友好関係を育てます。
- 全ての人々と共に、真の自由と平等を実現するため、差別や偏見を取りのぞくことに努めます。

～「チャットGTP、彼氏にしてみた」～

この題は、高校生の娘が弁論大会で語ったものでした。思わず笑いを誘うユーモラスな題ですが、その奥には、AIと共に生きるこれからの時代を、自分自身の問題として受け止めようとする真摯なまなざしがありました。

彼女は、優しく受け止めてくれる「AIの彼氏」を描きながら、最後にこう結びました。「AIがどんなに優しくても、私の心を決めるのは私自身。」この言葉は、「あなたはどうか生きていますか」と、娘から母である私へ静かに投げかけられた問いのように響きました。

弁論大会とは、単に言葉の巧みさを競う場ではなく、「自分は何を大切にしたいのか」を言葉を通して自分自身に問い直す時間なのだ、と改めて教えられました。

与えられた正解をなぞるのではなく、まだ揺れている思いを、それでも自分の言葉で語ろうとするその姿こそ、人が主体的に生きようとする第一歩なのだと思います。

今、社会はAI活用のただ中にあります。YMCAでも、議事録や報告書づくりにAIが加わり、仕事の効率は確かに高まりました。けれども、便利さが増すほどに、私たちは「時間をかけて心を通わせること」を、どこかで置き去りにしてはいませんか。

会議の席で生まれた沈黙。声にならなかったため息。そこに確かに流れていた「誰かを思う重さ」。AIはこれらを「データ」として扱うことはできても、「祈り」として受け止めることはできません。

山梨YMCAの使命・行動指針「LOVE FOR ALL」は、「共に生きる」社会を築くことを掲げています。それは、目には

見えない心のやりとりを信じ続けるという約束でもありません。

人は、結果や効率だけでは測れない存在です。対話や沈黙、衝突や和解をくり返しなが、ようやく少しずつ成長していく。その不器用さを受け入れることこそが、「人を信じる」ということではないでしょうか。

そして、私たちが大切にしている「祈る」という行為の意味を、改めて見つめたいのです。

祈りとは、ただ願いを並べるのではなく、自分の弱さを認めながら、誰かの幸せを願い続ける時間です。AIがどれほど高度になっても、「自分の思いどおりにならない現実」を前に、それでも愛そうとする、そんな心の動きは、人にしかできません。

AIが紡ぐ文章は整っています。けれども、祈りと経験から生まれた不器用な言葉には、血が通い、温もりがあります。「言葉の上手さ」よりも、「言葉を発する心の姿勢」を大切にしたいものです。

2026年、新しい年を迎えるにあたり、AIに囲まれて生きる時代に、なお“人である”とはどういうことだろう。

人を愛し、真実を語り、共に支え合う、その歩みは決して効率적ではありませんが、その遠回りのなかにこそ、人と人との深く出会い、神と出会う道が隠れているのだと思うのです。

「あなたの言葉が、誰かの心を照らす光でありますように。」その祈りを胸に、YMCAとして、そして一人の人として、これからも問い続けていきたいと思います。

野の花保育園 クリスマス会

ファミリークリスマス

チャイルドケア事業部 浅野 聖子

12月1日から毎日、子どもたちは交代でアドベントカレンダーの扉を開けてクリスマスを楽しみに待っています。保育室にもクリスマスの飾りが増えてきました。

今年のファミリークリスマスは、インマヌエル甲府キリスト教会の礼拝堂でお祝いしました。礼拝堂の中に入るのはみんな初めてなので、「きれいだね～」と言いながら、大きなクリスマスツリーやきれいなクリスマスの飾りを親子で見っていました。それらに囲まれて、さんびかを歌いお祈りをし、岡牧師がクリスマスのお話をしてくださいました。飾りのついていないクリスマスツリーには、ご家庭ごとに交代でクリスマスのオーナメントを飾り、2つのクリスマスツリーがすてきでした。



世界食料デー

Better Foods, Better Future

チャイルドケア事業部 小見山 優未

世界食料デーである10月16日のアドベンチャーY（毎週木曜日に開催されている、事業所の垣根を越えて交流を深めることができる空間）では、実際におにぎりを作る体験を通して、世界にはさまざまな事情から十分に食事をとることができず、栄養不足や飢餓に苦しむ人々がいることを学びました。

今年のキッズパラダイスでのWorld Food Dayプログラムでは、ゲストの方との交流やフィールドトリップを通して食について学びました。10月にはお米農家の坂本さんにお越し頂き、お米を育てる大変さや、どうしてお米の価格が高騰しているのかなどのお話をお聞きました。11月にはフードバンク山梨様へ訪問しフードドライブの仕組みやお仕事内容をお聞きし、倉庫内を見学させていただきました。普段のプログラムと違い、“食”に関わる方々のお話を直接お聞きすることで、子どもたちの“食”に対する興味が深まったように感じます。



東日本地区 総主事会議

東日本地区総主事会議にて

生涯学習事業部 田草川 啓



11月5日（水）6日（木）に東日本地区総主事会議が山梨YMCAで開催され、そこに参加された総主事のみなさまに歓迎アトラクションを行いました。

はじめに、英語学童の「キッズパラダイス」のメンバーによる英語の歌の発表を行いました。日本語の歌に子どもたちが英語の歌詞をを考えて作った英語の歌です。発表に備え練習して皆さんに披露できました。

次に、アフタースクールレッスンのチアダンス「エンジェルス」が鹿兒島YMCAの指導者（新内総主事）とつながり、実際のオンラインレッスンの様子を見てもらいました。

細かい指導もリモートで行い、チアの経験者がいなくてもオンラインで指導してもらい1曲、1曲を完成することができます。練習の様子をレッスン後に配信していますのでそれぞれ練習もできます。YMCAの“Spirit・Mind・Body”をどちらも大切にしながら活動しています。どちらのパフォーマンスにも、参加された方々からたくさんの拍手とおほめのことばをいただきました。



野外活動

山梨県民の日特別企画・みんなで作るオリジナルカレー

生涯学習事業部 菊池 央人

11月20日の山梨県民の日に、山梨YMCAの学童保育と放課後等デイサービスのメンバーを対象に、南アルプス市のエコパ伊奈ヶ湖で野外活動を開催しました。班ごとにリングやチョコなど異なる隠し味を選び、オリジナルカレー作りに挑戦。隠し味の数を決めるネイチャーゲームや火起こしにも挑戦し、協力してカレーを完成させました。

木々の葉が色づく森の中、山梨YMCAの学童保育と放課後等デイサービス合わせて7事業所のメンバー、スタッフの交わりのときが与えられたこの今日の1日。一緒に活動できる機会が多くないお友達もありますが、同じYMCAのメンバーとして、また会って活動できるときを待ち望みます。



教育フォーラム

第2回教育フォーラム「インクルーシブ教育を考える」

教育心理研究所 代表 土肥 満

11月29日（土）13:30から、本館3階ベテルホールにおいて、職員を含めて約30名が参加して行われました。

「インクルーシブ教育」とは、保育所・幼稚園、学校などで、障がいのある子どもとない子どもが、互いを認め合いながら、同じ場で共に過ごすことを目指した教育の在り方のことです。

山梨YMCAでも、これまでも共に活動できるようなインクルーシブな取り組みを各所で進めてきました。そこで、取り組みをさらに広げるために外部の方にも参加を呼びかけ、この会が実現しました。

第1部では、映画「みんなの学校」を上映しました。これは、実在する大阪市立大空小学校の取り組みをドキュメンタリーとしてまとめたもので、障がい、不登校、家庭など、様々な背景のある子どもたちを、周りの子どもたち、先生、地域の方々が支え・励まし、まさに包み込むように育ちあっている様子が映し出されていて、参加者はみな感動を覚えました。

第2部では、山梨大学教育学部障害児教育講座教授の吉井勘人先生を囲んで「みんなでインクルーシブ教育を語ろう」を行いました。

まずは、吉井先生から「私たちは、国連の勧告をどのように受け止めるか」と題して、「インクルーシブ教育」のとらえ方や今後の方向性について基本的な内容を教えていただきました。その中で、インクルーシブ教育のあり方は、それぞれの地域で違っていいんだというお話が印象に残りました。

続いて、参加者が映画の感想、不登校の子どもの居場所のこと、学校での障害のある子どもへの理解の差、就学への不安などが話され、意見交換や吉井先生からのアドバイスがありました。



研修・担当者会

YMCAでは、全国に広がるネットワークを活かし、各分野ごとにさまざまな研修や担当者会が開催されています。また、YMCA以外が主催する研修にも積極的に参加しています。この秋、山梨YMCAのスタッフが参加した主な研修・担当者会についてご報告いたします。

10月29日～31日	全国YMCA総務担当者会（総務部：土肥）
11月18日～19日	全国YMCAウェルネス研修会（生涯学習事業部：菊池）
11月29日～30日	全国YMCA発達支援担当者会（チャイルドケア事業部：平賀）
11月29日～30日	日本相談支援専門員協会 関東甲信越ブロック合同研修（チャイルドケア事業部：三枝）



▲ウェルネス研修会（寒沢の源流を訪ねよう）

子どもゆめ基金助成活動 デイキャンプ

YMCAと一緒に野外活動「銀河鉄道の森デイキャンプ」実施報告

甲府21ワイズメンズクラブ 佐藤 重良

このデイキャンプは、子どもたちが色々な体験から学ぶ活動に対して、公的な資金助成をする「子どもゆめ基金」に申請し、今年4月1日に採択された活動です。助成活動として、9月・11月の2回実施しました。9月23日（火）32名参加、11月24日（月）41名参加。甲府駅～新府駅（電車）、駅から徒歩で森へ。銀河鉄道の森で元気に生き生きと楽しみ、体験をしました。9月は森の探検、宝探し。11月は森の探検と森の材料を使った工作を行いました。YMCA田草川さん、平賀さん、菊池さんの指導のもと、ワイズメンズクラブとYMCAの協働イベントが成功裏に終わられました。

＜アンケートより＞ ブランコやシーソー、森の中に昔ながらの遊具でこんなにも遊べるのかと、子供の楽しみたい想像力はすごいなあと思いました。それも、スタッフの方々が安全に、そして工夫をしてお膳立てしてくださったおかげだと、感謝しております。帰ってきてから、とにかく楽しかった～とおしゃべりが止まらず、学校でもお話しをしているそうです。自然の中で遊びながら学ぶことを体験させていただき、本当にありがとうございました。（小6・母）



甲府21ワイズ ベビーカーコンサート

ベビーカーのままで音楽鑑賞、お父さん、お母さんも一緒に 甲府21ワイズメンズクラブ 寺田 喜長

乳幼児から生の音楽に親しみ、音感を育むことは成長していく中で大切な要素の一つと言われています。しかし、乳幼児はコンサートを聴きにいきません。また、子育て中のパパ、ママもコンサートを聴きに行く機会は少ないと思います。

この「ベビーカーコンサート」は泣いても、騒いでも、飛び回ってもOKのコンサートです。

甲府21ワイズメンズクラブでは、山梨YMCAを会場に年二回このコンサートを実施しております。11月15日に「第8回ベビーカーコンサートin甲府」を開催いたしました。約70名の方に来場いただき、「音楽アンサンブルパルフェ」グループの演奏、トーンチャイムやハンドベルを皆さんに奏でいただき曲を作り上げ、マーチに合わせて会場を行進等、約50分の楽しい時間を過ごしました。幼児に限らず全ての世代の方との交流の場です。

次の機会にはぜひご参加ください。



ワイズメンズクラブ 生い立ち

富士五湖ワイズメンズクラブ 富士五湖ワイズメンズクラブ会長 尾崎 時恵

当クラブは、2003年5月10日甲府クラブをスポンサークラブとして設立、現在クラブ会員は12名、その内の11名がチャーターメンバーです。その7年後2010年には、第13回東日本区大会をホストし、ハイランドリゾートホテルの大窓から大会最後に富士山が顔を見せてくれ、会場が大歓喜したというお話を伺っています。2018年には京都洛中クラブとDBC締結をし、その後も楽しく交流を深めています。2022年設立20周年記念が忍野村いちい亭で行われ、その後に、私は会員になりました。

主な活動は、毎年4月に他クラブの協力も

いただいて行われる障がい者フライングディスク大会で、今年15回を迎えます。昨年は参加総数308名という大きな大会に成長しました。

また、9月に富士山5合目で行われる富士山例会は22回目を迎えます。パイタリティーある12名が楽しく仲良く、多岐にわたるワイズ活動に参加しています。



感動の系譜

松本ワイズメンズクラブ会長 中本 昌子

松本ワイズメンズクラブは1988年（昭和63年）10月15日東京クラブ様と甲府クラブ様のスポンサーで誕生しました。

1994年5月大阪泉北クラブとDBC締結、現在も親密な交流を継続し現在に至ります。

1998年設立10周年記念事業として、信州大学に私費留学するアジア系留学生を対象にした支援事業日本語作文コンテスト「アジア賞」を創設し、第1回アジア賞授賞式を開催しました。

2011年6月4日はワイズの最大イベント第14回東日本区大会が松本で開催されることになり、その準備に奔走しました。その最中に未曾有の東日本大震災が発生しました。

大会開催が危惧される中、困難を乗り越え、大会運営をサポートし東日本大震災被災者支援「松本から届けようワイズの心」を掲げ、成功裏に終わることが出来ました。

2013年4月国際親善の一環として台湾桃園クラブとIBC締結、交流を継続し現在にいたります。



YMCA × YWCA 合同祈禱会

共に祈る時 YMCA・YWCA合同祈禱週

甲府YWCA会長 山本 貴美子

1875年の第7回世界YMCA大会において、11月の第2日曜を「祈禱週間」の始まりと定めることが合意され、1907年にロンドンで開催されたYMCA・YWCA代表者会議で、世界祈禱週を共同のプログラムとして共に祈ると決められました。

合同祈禱週150周年の今年は、「ヨベルの年の祝祭；祈りと行動の150年」のテーマが示されました。世界YMCAとYWCA会長の共同メッセージでは、「祈りは私たちの働きの鼓動であり続けてきました。それは不正義に立ち向かう時の力であり、苦難の時の慰めであり、希望が勝利したときの感謝の歌でもありました。共に声を合わせて神に祈りをささげ、勇気と正義と平和を求めて祈り続けてきました。」と語っています。



私たち山梨YMCA・甲府YWCAは、11月15日にこのテーマで八ヶ岳教会の山本護牧師をYMCAのホールにお招きし、奨励「旅人になる」をお聞きして祈り合い、交流会をいたしました。甲府で祈禱会が始まったのはいつからかは、手元に記録がないのでわかりませんが、大澤英二さんは初回から出席しているとおっしゃっていました。以前は少ないYMCAの参加者に対して、YWが手作りのお菓子やお茶の用意をして、一年に一度だけ会える、まるで織姫と彦星と笑っていましたが、近年は、YMCAの方の出席者が多くなりました。これからは若い職員の方々にも参加を願い、これを契機にYM・YWの垣根を取り払って、自由な交流が盛んになればうれしく思います。



史料室便り No.8

ハイY OB宮崎武さんによる竹手芸品

史料展示室運営委員 松村 禎夫

今年もYMCAバザーが盛大に行われました。このバザーに毎年、たくさんの竹手芸品が出品されていることをご存じでしょうか？

この竹手芸品は、ハイYOBの宮崎武さんご自身が制作されて献品してくださったものです。宮崎さんは、かつて 瑞牆（みずがき）山ふもとの「天使園」で行われていたハイY夏季ワークキャンプに、千葉の聖書学園（現千葉英和高等学校）から参加されていました。

そのワークキャンプ参加者による「ミズガキに集う会」は、毎年8月に瑞牆山ふもとで行われ、宮崎さんは2000年ごろから参加されていましたが、会の発起人の一人だった元山梨YMCA理事長大沢英二先生が2020年11月に逝去された後に解散しました。その後も宮崎さんは、時々瑞牆山を訪ねられ、山梨YMCAにも立ち寄られて竹細工品を届けてくださいました。

今年は体調不良で山梨に行けないかも知れないとのことで、事前に段ボールいっぱいの各種竹手芸品を送って下さいました。しかし、バザーが終わった11月20日に、奥様とご一緒に甲府に来られ、史料展示室を見学されて、お身体の近況やハイYの頃の思い出、今後も続けられる趣味の竹細工のお話など、中田総主事を交えて歓談することができました。



▲右から2人、3人目は宮崎さんご夫妻

業務の間に…

この「山梨青年」では、各事業部・ワイズメンズクラブの取り組みや活動を中心にお伝えしていますが、今号では少し視点を変え、山梨YMCAに集う「人」の顔が見えるコーナーを設けました。

日々の業務の合間に交わされる、スタッフ同士の何気ない会話を通して、私たちの雰囲気や大切にしていることを感じていただければ幸いです！

今回の話題は、なぜか誰もが足を運んでしまう街、原宿。立場や世代の異なる3人の思い出話から、自然と会話が弾みました。

ふとしたきっかけで始まった、ゆるやかな原宿トーク。中学生のころから原宿に通い、今では娘さんと一緒に訪れるという中田総主事。その話をきき、「妹を連れて行ってあげようかな？」と興味津々なのが、ゆうゆうです。

そして、気づくとつい足を運んでしまう身近な場所として原宿をあげる私も加わり、それぞれの視点から思い出を語り合いました。

時代や関わり方が違ってても、「何度でも行きたくなる場所」という感覚や共通しているようです。何気ない雑談の中に、人柄や日常が垣間見えるひとときとなりました。

こうした雑談もまた、私たちの大切なコミュニケーションの一つです！次回以降もお楽しみに！

文：渡邊 結菜

*本コーナーでは、スタッフの会話のもとに構成しています。



▲ 左から ゆうゆう（スタッフ 小見山 優未）
私（スタッフ 渡邊 結菜）、中田 純子 総主事

のぞいてみよう 山梨YMCA



山梨YMCA公式ホームページ



山梨YMCA公式Facebook



@YAMANASHIYMCA_YAGAI



YAMANASHIYMCA_YOUTH

ご寄付のご協力に感謝いたします。

2025年 11月 （敬称略）

石塚 誠
剣持 正明
齊藤 洋子

豊田 香織
山梨分区信徒会

インフォメーション

ポジティブネットYMCA国際協力募金 ～世界の友だちとつながろう～

* 貧困・戦争・災害などで苦しんでいる国々へ送られます。

○募金期間 12月1日～1月31日

○募金窓口 山梨YMCAグローバルコミュニティセンター

南西望みの家・田富恵の家

・各事業所へお持ちください

・募金箱、募金袋の用意もあります

・2月にまとめて日本YMCA同盟に送金します

賛助会員の募集のご案内

山梨YMCA賛助会とは、当法人の目的や願いに賛同し、その活動を援助、支援する団体・個人によって構成されている会員組織です。山梨YMCAの目的や願いとは、健全な英少年を育成すること、また地域の人びとと共に平和な社会を実現することです。個人として、また団体・企業として山梨YMCA賛助会へ参画いただくことにより、さまざまな地域貢献、国際協力活動の支援につながり、個人の自己実現のみならず、企業の社会的責任の実践となります。ご賛同いただける方は、お知らせください。

賛助会費：年額 一口 5,000円

山梨YMCAでは、さまざまな事業（企業主導型保育園、子育て支援、障がい児支援、放課後児童クラブ、語学教育、高齢者デイサービスなど）を通して、平和で公正な社会の実現に向けて日々活動しています！



表紙の写真から



12月5日（金）に山梨YMCA本館で行われたクリスマスツリー点灯式では、南西教室（甲府市下石田）とりんごの木（中央市）でリモートで繋げ、点灯式の様子をリアルタイムで見ました。3拠点がつながり、同じ時間をともに過ごすことができた日になりました。